

自然環境や人々の生活が地球規模で損なわれている今、メキシコで展開されている植林プロジェクト「センブランド・ヴィダ」に注目する。

この間、ウインドファームで年2回発行しているカタログ冊子「コーヒー生産地とつながる旅」では、メキシコの国家的植林プロジェクト「センブランド・ヴィダ」の重要性について多くのページを使ってお伝えしてきた。しかし、植林活動以外にも、森林農法という伝統文化の復活や、雇用機会の増加、移民問題など、様々な課題を克服する可能性をもったこの取り組みを、日本のマスメディアが取り上げることはない。気候変動をめぐる問題が、これだけ深刻化しているにも関わらず・・・。

そんな状況を残念に思っていたある日、グッドニュースが飛び込んだ。かつてオバマ政権の下で国務長官を務め、現在は気候変動問題担当大統領特使であるジョン・ケリーとえば、テレビや新聞でその顔に見覚えがあるかもしれない。2021年10月18日、そのジョン・ケリーが「センブランド・ヴィダ」の取り組みを視察するために現地を訪れたのだ。メキシコ政府が制作した映像には、アムロ大統領（メキシコ）をはじめ「センブランド・ヴィダ」に関わる大臣が説明をしている様子が、取められている。アムロ大統領たちがジョン・ケリーに伝えた内容を辿りながら、センブランド・ヴィダの現状をお伝えする。

アメリカ政府気候変動問題担当特使：ジョン・ケリーのメキシコ訪問

ジョン・ケリーに伝えた国家的植林プロジェクト「センブランド・ヴィダ」の現状

アムロ大統領の説明は、まず「センブランド・ヴィダ」の予算と、このプロジェクトに関わっている人員の数から始まった。2021年の予算は289億ペソ（約1600億円）。植林活動に従事している登録者は現在、44万4790人。それぞれが自分の区画で行った作業に対して、月額5000ペソ（約2万7000円）の支払いを受け取る。

登録者のうち、69%が男性、31%が女性だ。さらに、「センブランド・ヴィダ」では、実施される植林の運営、管理を担うコーディネーター、ファシリテーター、および技術者を、合計で4911人採用している。

また、「若者の未来プロジェクト」という、奨学金制度で学んでいる若者3万8514人も作業に従事している。

植林プロジェクトとしての「センブランド・ヴィダ」の全体的な目標は、112万7500ヘクタールで

11億本の植物を栽培すること。現在は、8億1700万本の植林と111万2000ヘクタールの森林再生が進行している。

植林活動だけではない「センブランド・ヴィダ」が担う役割

「植林の取り組みを通して雇用を生み出すことで、人々が土地を離れ移民となることを防ぎます」と、人々の生活に与える効果に言及するのは、ピエンエスタール省の大臣、ハビエル・メイ・ロドリゲスだ。彼はさらに説明を続ける。「特に、若者が生まれた土地で生活できる基盤をつくり、かつてのような社会のつながりを取り戻し、地域社会が再生されます。」

映像には実際に植林活動をしている人々のコメントも含まれている。ある女性は「以前は別の町に働きにいかなくてはなりませんでしたが、今はセンブランド・ヴィダのおかげで、自分の土地で生活することができると話す。また、「この土地を離れることなく、より良い仕事が見つかりました」と語る男性の姿もあった。

環境大臣マリア・ルイサによる説明

元トセパン協同組合の顧問で、現在はメキシコの環境大臣のマリア・ルイサは、「センブランド・ヴィダ」が担う環境保護や農業生産の役割

について、ジョン・ケリーに説明する。

「まず、知って頂きたいのは、センブランド・ヴィダの植林プロジェクトは、国内の先住民の農業スタイル、つまり、森林農法（アグロフォレストリー）が手本となっているということです」と言っ

て、マリア・ルイサは話を始めた。

「アグロフォレストリーは主にメキシコの熱帯地域で見られる栽培方法です。歴史的にはスペイン人が新大陸にやってくる前から、カカオ栽培を中心に、先住民によって森林農法が営まれていました。また、アフリカからもたらされたコーヒー栽培も取り込みながら、メキシコの先住民は独自のスタイルを築いています。」

続けてマリア・

ルイサは、アグロフォレストリーの二酸化炭素の吸収量についての効果を説明した。「100万ヘクタールに植林すると、年間1780万トンのCO2を吸収します。また保水についても、「森林農法を展開する地域では、10リットルの水のうち、9リットルは森林農法の恩恵により生み出され、その9リットルの内、6リットルは生活・農業に使用、残り3リットルが地下水脈へと流れていきます。」

マリア・ルイサは最後に、もしもセンブランド・ヴィダの取り組みを、気候や自然環境などで類似点が多いグアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラスの中米3ヶ国へ展開した仮定でのデータを示した。実現した場合の植林面積は計400万ヘクタール。二酸化炭素の吸収、水資源の確保、土壌の保全などアグロフォレストリーは気候変動の抑制に大きな役割を果たすことを、マリア・ルイサは強調した。トセパンで技術アドバイザーとしても活躍していただけあって、マリア・ルイサ

- メキシコ新政権が最も重視する政策
- 100万ヘクタールの植林プロジェクト
単一栽培ではなく、森林農法（アグロフォレストリー）による作物の植林・栽培が行われる。
- プロジェクトの目標
 - ・森林農法による森林再生と生態系の保全
 - ・貧困対策として40万人の直接雇用を生み出す
 - ・地域に昔からあったコミュニティーのつながりの再生

sembrando vida

植林プロジェクト
センブランド・ヴィダ = いのちの種をまく

ウインドファームのコーヒーマイスターコラム

【これからもコーヒーを楽しんでいくために私たちにできること】



今回のコラムは焙煎の探求から離れ、昨今のコーヒーを取り巻く環境について広く考えてみました。この2年間で様々なことが、変じてしまいましたが、コーヒー業界にも近年色々なことが起きています。

☕️ コーヒーの2050年問題

このまま気候変動による地球温暖化が進めば、2050年にはコーヒー栽培に適した環境が半減してしまう。それが2050年問題です。世界最大のコーヒー生産国ブラジルでは2021年、深刻な「雨不足による干ばつ」と「寒波による霜害」に見舞われ、21〜22年度の生産量が前年比20%程減少するとも言われています。

年間約360万トン(全世界のコーヒー生産量の30%)がブラジルの生産量。それが単純に20%減少すると、72万トン(コーヒーカップにして約580億杯分の減少となります。日本のコーヒー年間消費量が約45万トンなので、それよりも多い量です。

霜害にあったコーヒーの木は枯れてしまうことが多いため、2022年以降の影響も心配されています。ブラジルだけでなく、弊社と繋がりのある各地の農園や生産者組合でも、大雨・洪水、ハリケーンによる被害は毎年のように起きています。

地球温暖化の原因の一つとして、山や森の木を切り拓き広大な土地で単一の作物を栽培するプランテーションがあります。コーヒーはプランテーションで栽培される代表的な作物。コーヒーを大量に作るために行ってきたことが、この先コーヒー栽培に適した土地を減少させる一因になっている、という

の説明は農業や生態系に深く関わるもので、かつ具体的なものだった

”離れざるを得なかった大地に帰ること。それがセンブランド・ヴィダの基本的な考え”

気候変動、自然破壊、移民の問題。多くの問題を抱えているのはメキシコに限ったことではなく、もはや地球全体の問題となっており、SDGs(持続可能な開発目標)では17項目目の解決すべき目標を掲げている。

地球全体でその目標達成に向けて取り組もうとしていくとき、すでに多くの実績を残している「センブランド・ヴィダ」は明確なヴィジョンを私たちに示してくれている。国内で生み出した雇用は、目標の45万1000人に対して44万5000人。すでに植林した苗木の数は8億1744万7634本で、その面積は111万1975ヘクタール。(100万ヘクタールの広さは100キロ×100キロの正方形の面積。東京ドーム213万8808個分)

アムロ大統領は語る。「私たちに土地があり水があり、その土地で働くことができます。生まれ故郷、そして家族を、喜んで捨て去る人はいません。センブランド・ヴィダの基本的な考えは、”離れざるを得なかった大地”に帰ること。移民問題の解決は、人を国境で逮捕することではありません。この政策により、気

候変動と共に、移民問題にも対応し、人々が生まれた場所で家族、親戚とともに、暮らし続ける基盤ができるのです」と。

最後に、アムロ大統領は「アメリカ政府と一緒にあれば、移民問題にも対応できるはず」とジョン・ケリーに伝えて説明を終えた。(文・ウインドファームスタッフ)



環境大臣マリア・ルイサ(写真出典:「24horas誌より」)



現地を視察するジョン・ケリー(写真出典:メキシコ大統領府HPより)



■植林面積 (ha)
目標:112万7500
現在:111万1975

■苗木の数
目標:11億本
現在:8億1744万7634本

■生産者数
目標:45万1000人
現在:44万4790人
(女性:31% 男性:69%)

■予算額
(2021年):
289億2990万
8846ペソ(約14.5億ドル)

■専門家数
4,911人
※技術指導者、ソーシャルワーカー、ファシリテーターなど

■奨学生(若者の未来プロジェクト)
3万8514人

ことです。

☕️ 需要の増加と価格の上昇

一方で、コロナ禍以前から世界のコーヒー消費量は増加しており、ここ数年で10%以上増加しています。それに合わせて生産量も増加していましたが、今後数年間ブラジルのコーヒー生産量が減少する見込みと、コロナ禍による混乱でコーヒー輸出のコンテナが不足している状況もあり、コーヒー不足が現実的になっていきます。需給のバランスが傾いていることからコーヒーの国際的な取引価格は上昇、物流コストの増加も重なり、2021年の秋以降日本でもコーヒー関連商品の値上げが続いています。

☕️ コーヒーとSDGs 森林農法という希望

しかし、こうした状況においても、まだ希望は残っています。SDGs(持続可能な開発目標)の17の目標の中には、気候変動への対策、海と陸の豊かさを守る、貧困・飢餓を無くし全ての人に健康的な生活を確保する、などコーヒー業界と深く関係する部分も多いです。また2050年問題とも相まって、コーヒー業界でも持続可能な生産や流通への取り組みが増えてきています。

なかでも重要な役割を担っているのが、森林農法です。弊社では森林農法で栽培されたコーヒーを中心に取り扱っています。森林農法のコーヒー園では、コーヒー以外の作物や建材になる木など様々な樹木が植えられており、食料、木材、飼料燃料としてなど多くの森の恵みが得られます。

昔の高い木はシェードツリーの役割にもなり、落ち葉や果物の茎などは土に返ることで、コーヒーにとって良い肥料にもなります。森を守る森林農法は、2050年問題やSDGsへの取り組みの、一つの希望であり答えだと思っております。(これまで本誌でもお伝えしてきたように、この森林農法を2018年から国策(センブランド・ヴィダ)として推進しているのがメキシコ(PX参照)で、そのモデルはトセパン協同組合です。

(SCAJ認定
コーヒーマイスター
中村拓平)



トセパンのコーヒー農園(上)



一般的なコーヒー農園(右)